

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 看護学部 看護学科

【設置の趣旨・目的等】

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」において、「I 設置の趣旨及び必要性」の「5）鹿兒島国際大学に看護学部を設置する趣旨及び必要性」では、「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する看護職を養成する」ことを掲げるとともに、「IV 教育課程編成の考え方」の「2.1）(2)保健師・看護師教育課程の一体化した体系的な編成」においても、「保健師教育課程と看護師教育課程を一体化した体系的な教育課程の編成が必要」としているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーからはそのような内容が見受けられず、設置の趣旨と養成する人材像やディプロマ・ポリシー等との整合性があるとは判断できない。このため、「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する看護職を養成する」という設置の趣旨と育成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性について妥当性を説明するか、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・2
2. ディプロマ・ポリシーとして、「DP8 よりよい看護実践に意欲と関心をもちグローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。」と「DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。」ことを掲げ、カリキュラム・ポリシーにおいても「CP9 多文化について学び国際的視野を養う」としているが、「国際」をどのように捉えているか判然としないことに加え、「設置の趣旨等を記載した書類資料」の「資料8 看護学部看護学科カリキュラムマップ」で示されている CP9 の関連授業科目を見ても国際的な内容を扱うとは見受けられないため、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているとは判断できない。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーにおける「国際」の内容を説明してそれぞれのポリシーの内容を明確にした上で、人材像との整合性を含めてディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合していることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。また、「表4 ディプロマ・ポリシーを評価する重要科目とパフォーマンス評価項目」では、DP14 のディプロマ・ポリシーを評価する重要科目として「看護キャリア発達論」を挙げているが、国際的視野を養成する科目内容とはなっていない上に、国際看護や国際保健を扱う授業は「看護学概論」及び「健康増進ケアⅣ」のうちの数回（3回）しかなく、教育課程との整合性についても疑義があることから、併せて明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

(是正事項) 看護学部 看護学科

【設置の趣旨・目的等】

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」において、「I 設置の趣旨及び必要性」の「5) 鹿児島国際大学に看護学部を設置する趣旨及び必要性」では、「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する看護職を養成する」ことを掲げるとともに、「IV 教育課程編成の考え方」の「2.1) (2) 保健師・看護師教育課程の一体化した体系的な編成」においても、「保健師教育課程と看護師教育課程を一体化した体系的な教育課程の編成が必要」としているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーからはそのような内容が見受けられず、設置の趣旨と養成する人材像やディプロマ・ポリシー等との整合性があるとは判断できない。このため、「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する看護職を養成する」という設置の趣旨と育成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性について妥当性を説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

今回、審査意見1において、設置の趣旨で示す「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する看護職を養成する」という本旨と育成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性があるとは判断できないとの指摘を受け、それぞれについて内容を再確認し、より明確な整合性を示す表現となるように検討を行い、以下のような変更を行った。

1) 人材養成像について

鹿児島国際大学に看護学部を設置するにあたり、学士課程教育において看護職を養成することから、養成する人材像の骨子は学士課程教育と看護職を養成する看護教育課程という2つの観点から構成した。

(1) 学士課程教育の観点

平成17年に示された中教審の「我が国の高等教育の将来像」答申では、“専攻分野についての専門性を有するだけでなく、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質を有する人材”である「21世紀型市民」を育成することが学士課程教育における公共的使命とされている。そして、現代社会の直面する地球の持続可能性を脅かす課題等に対応しうる自立した市民として、学問の基本的な知識を獲得するだけでなく、知識の活用能力や創造性、生涯を通じて学び続ける基礎的な能力を培う必要性が示されている。

そこで、看護学部の人材養成像においては、「いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職」の下線部分に学士課程教育において培う養成像を表した。

これらの観点は、「設置の趣旨等を記載した書類」の「I 設置の趣旨及び必要性 3. 教育研究上の目的及び研究対象とする学問分野 2) 教育目的及び人材養成像(9頁)」において、“いのちに関わる看護職を養成することを前提に、今日の生態系における様々ないのちを脅かす環境変化や社会現象に関心を向け、その成り立ちや自身との関わりを深く検

討、熟考し、持続可能ないのちの営みに自身はどのように向き合い関わるかについて多角的に考え、自らの倫理的基盤を築くことができるようにする“として記載している。

(2) 看護教育課程の観点

看護職を養成する教育課程については、日本及び鹿児島県における現状分析と地域社会の要望から、今後の急激な人口減少により、高齢化と生産年齢人口減少が進行する鹿児島県において、人々が住み慣れた地域でより健康的な暮らしが営めるように、

- ①健康から不健康の連続線上にあるあらゆる健康レベルの人々を看護する能力
- ②様々なライフステージにある人々の特性に応じて看護する能力
- ③地理的条件に恵まれない地域から都市部まで多様な場で暮らす人々を看護する能力
- ④日常時や緊急事態などの様々な状況にある人々を看護する能力
- ⑤個人や地域の健康課題の解決のために、住民や多職種と連携協働し、システム化・事業化に向けて柔軟且つ創造的に取り組み実現できる能力

を備えた、保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する人材を養成する必要性が明確となった。

そこで、看護学部の人材養成像では、「いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職」と表した。これにより、学士課程教育において培う基礎的能力を看護教育課程においても活用・発展させつつ、下線部分に、様々な、健康レベル・ライフステージ・地域・状況等にある人々が、より健康的な暮らしを送れるようになるための課題解決に、常にベストな方法を検討しつつ探究的に取り組むことができるという保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い看護職ならではの实践能力に焦点を当て、それらを包括的に表わす養成像とした。

このように人材養成像には、あえて保健師、看護師という職業名は用いなかった。それは、保健師、看護師という名称を用いることにより、一般的に広く認識されている両者の職業やどちらかの役割に偏ったイメージが想起されやすくなると考えたからである。これからの生産年齢人口減少により看護人材の確保が困難になることが予測される社会状況においては、「保健師だから」「看護師だから」ということにとらわれることなく、対象の健康レベル・ライフステージ・地域・状況等の特性に応じて、看護職としての専門性に立脚しつつ、必要な看護を判断し、創造的に看護に取り組むことができる質の高い実践能力を有する人材養成が必要と考える。

これらの観点は、「設置の趣旨等を記載した書類」の「I 設置の趣旨及び必要性 3. 教育研究上の目的及び研究対象とする学問分野 2) 教育目的及び人材養成像(10 頁)」において、“それらの姿勢(いのちに対する基本姿勢)を基に、幅広い教養と人間性及び看護の専門的知識と技術を身につけ、対象が地域において納得できる健康的な暮らしを営めるように、常に学び続け固定観念にとらわれることなく自由な発想で健康課題の解決法を創出し支援できる実践力を獲得できるように教育する”として記載した。

以上の理由から、人材養成像については、修正、加筆は行わず、設置の趣旨に示した「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践力を養成する」ことについて

は、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーにおいて、以下のような加筆、修正を行うことにより、整合性を図ることとした【資料 1、2】。

2) ディプロマ・ポリシーについて

平成 20 年度に示された中教審の「学士課程教育の構築に向けて」答申では、「学修成果」とは“プログラムやコースなど、一定の学修期間終了時に、学修者が知り、理解し、行い、実演できることを期待される内容を言明したもの”とされている。そのため、学修成果として、学修者の実演などにより表現されたものを手掛かりに、概念理解の深さや知識・スキルを総合的に活用する能力を直接評価するパフォーマンス評価が重視されている。

看護の実践家を養成する看護教育課程である看護学部においては、人材養成像に示した「いのちをとうとび、はぐくみ、つなぐことを基本姿勢とし、人々が地域において健康的な暮らしを営めるように、よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職」が備えておくべき看護実践能力を、パフォーマンス評価できるように卒業認定・学位授与の方針であるディプロマ・ポリシーに示す必要がある。

そこで、人材養成像に示す看護職はどのような実践能力を獲得すべきかを検討し、以下の【総合的な看護実践能力】

DP 9. その人らしい地域での暮らしを支えることができる。

DP10. 生活に密着した予防活動を行うことができる。

DP11. 健康課題の解決を手助け、支援することができる。

DP12. 生活機能の回復・維持を手助け、支援することができる。

DP13. 健康的な生活をチームで支えることができる。

DP14. 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

という 6 つの看護実践能力を明確にした。

これらは、保健師と看護師の役割を統合して、様々な健康レベル・ライフステージ・地域・状況等にある対象の健康課題を、常にベストな方法をグローバルな視点により探究し、その解決に多職種と連携し取り組むことができる看護職の有する看護実践能力を示す。

そして、これらの 6 つの総合的な看護実践能力は、様々な下位の実践能力が統合されて発揮されるものであることから、総合的な看護実践能力に内包される実践能力について検討を行い、8 つの下位となる実践能力を明確にした。それらを鹿児島国際大学の定める全学ポリシーにおいてディプロマ・ポリシーの観点とされる「知識・技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」の 3 領域に分類し、以下のように DP1～8 に示した。

[知識・技能]

DP1. いのちについて多角的にとらえ検討して説明できる。

DP2. 対象を地域で暮らす人として全人的にとらえて説明できる。

[思考・判断・表現]

DP3. 様々な健康レベルにある対象の生活・健康状態を根拠に基づいて判断する能力が身についている。

DP4. 対象から信頼される関係を築くことができる。

DP5. 対象の健康課題を解決する能力が身についている。

〔関心・意欲・態度〕

DP6. 対象の尊厳を護る態度が身についている。

DP7. 地域包括ケアチームにおいて看護の専門性を発揮しつつ協働できる能力が身についている。

DP8. よりよい看護実践に意欲と関心をもちグローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。

以上の DP1～14 は、設置の趣旨で示す「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する看護職」が修得すべき具体的な実践能力である。

しかし、今回審査意見 1 により、“設置の趣旨では、「保健師と看護師の役割を統合して果たせる質の高い実践能力を有する看護職を養成する」ことを掲げるとともに、教育課程編成の考え方においても、「保健師養成課程と看護師教育課程を一体化した体系的な教育課程の編成が必要」としているが、養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーからはそのような内容が見受けられず、設置の趣旨と養成する人材像やディプロマ・ポリシー等との整合性があるとは判断できない”との指摘を受けた。

そこで、設置の趣旨と養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの整合性を再度検討した結果、看護学部において養成する看護職の独自の専門性は、「保健師だから」もしくは「看護師だから」実践できる看護ではなく、「保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職」だからこそできる看護実践能力の育成であり、そのことを明確に表明する必要があるという結論に至った。

これらの検討結果を踏まえ、看護の専門性を述べている DP7 において「保健師と看護師の役割を統合した」という文言を加筆し、一部修正を行うことによって整合性を図ることにした【資料 1、2】。

具体的には、

(旧) DP7. 地域包括ケアチームにおいて看護の専門性を発揮しつつ協働できる能力が身についている。



(新) DP7. 地域包括ケアチームにおいて**保健師と看護師の役割を統合した**看護の専門性を発揮し、協働できる能力が身についている。

と、加筆、修正することにした。

3) カリキュラム・ポリシーについて

看護学部の看護教育課程は、ディプロマ・ポリシーに示す看護実践能力を獲得するための教育科目を、初年次から順次、体系的に学び、修得することができるように、以下のようなカリキュラム・ポリシーによって編成を行った。

- CP1. 人材養成像を基に、カリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。
- CP2. 全開設科目を、看護構想、看護実践コア、看護実践能力育成、看護探究、の科目群に分類し、体系的に編成する。
- CP3. 1～2年次には、キャリア教育を含む幅広い総合的な内容からなる共通教育科目とともに、主要概念に基づく看護構想科目群を主体的に学び、豊かな人間性を有する自律した医療人としての基礎を育む構成とする。
- CP4. 学生が看護職としての専門性を築きつつ、着実に看護実践能力を修得できるように、学生の意欲・関心を起点とし、それらを拡大発展できるように授業科目を配置する。
- CP5. 初年次から、「生活機能援助論」を開講し、看護への関心を専門職としての知識・スキル・態度の修得に方向づけ、主体的な学習態度を修得できるように配置する。
- CP6. 「生活機能援助論」は、基礎看護技術と専門領域の技術を統合して教授する。そして、対象の健康状態や出現症状を適切にアセスメントし、援助技術を考案・実施・評価することにより、どのような場においても対象に必要な援助を自ら判断し提供できる看護実践能力を育む構成とする。
- CP7. 看護実践能力育成科目群は、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護とし、対象の健康を健康な状態から不健康な状態まで連続線として捉え、看護する視点を育成する編成にする。さらに、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。
- CP8. 実習では、最初に「既修得理論・技術」の学習の時間を設ける。また、実習後には、実習内容を整理・統合する「実践と理論の統合」の時間を設け、看護の役割の明確化と自覚を高めるとともに、自身の看護実践を説明可能なものとしてできるように構成する。
- CP9. 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。

審査意見1において指摘された設置の趣旨、養成する人材像、ディプロマ・ポリシーとの整合性について検討した結果、看護学部で養成する看護職の独自の専門性として「保健師と看護師の役割を統合して果たせること」をDP7において表明することにより、それらの整合性を図ることにした。

これらを踏まえ、カリキュラム・ポリシーにおいても、カリキュラム編成の根本的な考え方を示すCP1と看護実践能力育成の体系化の枠組みを示すCP7において、「保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成する」看護教育課程であることを明確に示す加筆、修正を行うことにより、整合性を図ることにした【資料1、2】。

具体的には、

(旧) CP1. 人材養成像を基に、カリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。
↓
(新) CP1. 人材養成像を基に、 保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。

(旧) CP7. 看護実践能力育成科目群は、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護とし、対象の健康を健康な状態から不健康な状態まで連続線として捉え、看護する視点を育成する編成にする。さらに、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。
↓
(新) CP7. 看護実践能力育成科目群は、 保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために、 対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護として 編成する。また、 多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。

と、加筆、修正を行った。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
DP7. 地域包括ケアチームにおいて 保健師と看護師の役割を統合した看護の専門性を発揮し、協働できる能力が身についている。	DP7. 地域包括ケアチームにおいて 看護の専門性を発揮しつつ協働できる能力が身についている。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
人材養成像を……を設定した。そこで、 保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムを構成する主要概念を、……明らかにした【資料7】。	人材養成像を……を設定した。そこで、 カリキュラムを構成する主要概念を、……明らかにした【資料7】。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (12 ページ)

新	旧
<p>看護実践能力育成科目群 <u>保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために、看護を対象の健康レベルを基に、健康増進看護、健康回復看護、長期療養生活看護に編成し、様々なライフステージ、場、状況にある対象（個人、集団）の特性を的確に把握し、普遍的看護を、それらの特性を踏まえて具体的・個別的に展開する実践力を育成する科目から成る。</u></p>	<p>看護実践能力育成科目群 <u>看護を対象の健康レベルを基に、健康増進看護、健康回復看護、長期療養生活看護に編成し、様々なライフステージ、場、状況にある対象（個人、集団）の特性を的確に把握し、普遍的看護を、それらの特性を踏まえて具体的・個別的に展開する実践力を育成する科目から成る。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (12 ページ)

新	旧
<p>CP1. 人材養成像を基に、<u>保健師と看護師の役割を統合して果たせる看護職を養成するためのカリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。</u></p>	<p>CP1. 人材養成像を基に、<u>カリキュラムの主要概念を「いのち」「人間」「暮らし」「健康」「看護」とし、教育科目を設定する。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (12 ページ)

新	旧
<p>CP7. 看護実践能力育成科目群は、<u>保健師と看護師の役割を統合して果たせる実践能力を育成するために、対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護として編成する。また、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。</u></p>	<p>CP7. 看護実践能力育成科目群は、<u>対象の健康レベルを枠組みとして、健康な人を対象とする健康増進看護、健康障害を有する人を対象とする健康回復看護、さらに長期療養を必要とする人を対象とする長期療養生活看護とし、対象の健康を健康な状態から不健康な状態まで連続線として捉え、看護する視点を育成する編成にする。さらに、多職種とのチームケア能力を育むために他学部学生と学ぶ時間を設けた地域包括チームケア論や災害支援論などの発展科目も配置する。</u></p>

(是正事項) 看護学部 看護学科

【設置の趣旨・目的等】

2. ディプロマ・ポリシーとして、「DP8 よりよい看護実践に意欲と関心をもちグローバルな視点を基に探究し続ける姿勢が身についている。」と「DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。」ことを掲げ、カリキュラム・ポリシーにおいても「CP9 多文化について学び国際的視野を養う」としているが、「国際」をどのように捉えているか判然としないことに加え、「設置の趣旨等を記載した書類資料」の「資料8 看護学部看護学科カリキュラムマップ」で示されている CP9 の関連授業科目を見ても国際的な内容を扱うとは見受けられないため、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているとは判断できない。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーにおける「国際」の内容を説明してそれぞれのポリシーの内容を明確にした上で、人材像との整合性を含めてディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合していることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

また、「表4 ディプロマ・ポリシーを評価する重要科目とパフォーマンス評価項目」では、DP14 のディプロマ・ポリシーを評価する重要科目として「看護キャリア発達論」を挙げているが、国際的視野を養成する科目内容とはなっていない上に、国際看護や国際保健を扱う授業は「看護学概論」及び「健康増進ケアⅣ」のうちの数回（3回）しかなく、教育課程との整合性についても疑義があることから、併せて明確に説明すること。

(対応)

今回、審査意見2において、“ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに「国際」に関する用語を掲げているが、「国際」をどのように捉えているかが判然としないことに加え、カリキュラムマップに示されている CP9 の関連授業科目を見ても国際的な内容を扱うとは見受けられないため、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているとは判断できない”との指摘を受けた。また、“「DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。」を評価する重要科目として「看護キャリア発達論」を挙げているが、国際的視野を養成する科目内容とはなっていない上に、国際看護や国際保健を扱う授業は「看護学概論」及び「健康増進ケアⅣ」のうちの数回（3回）しかなく、教育課程との整合性についても疑義がある”との指摘を受けた。

以上の「国際」に関する教育内容を再検討し、より明確な整合性を示す教育内容となるように検討を行い、以下のような変更を行った。

1) 「国際」に関する教育のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性について

鹿児島国際大学は、「国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材の育成」と「地域に暮らす人々の生活を生涯支え続けるための人材育成」を基本理念に、基礎教育、専門教育、グローバル教育、地域人材育成教育を4つの柱として、「知を学び、地に活かす」人材養成のための教育カリキュラムを編成し展開している。また、初年次から地域で学び、地域の課題解決力を高める地域教育システムを構築し、地域と一体となって人材養成を行っている。このように、鹿児島国際大学は、長年国際的視野でものを考え、地域的視点で行動できるグローバルな人材育成に取り組んできた。そして、国際的視野の育成において

は、「コミュニケーション力」「異文化をリスペクトする能力」「グローバルな視点で利益となるビジョンを構想し伝えられる能力」を培うための多様な共通教育科目と専門教育科目を開講している。

以上のように、鹿児島国際大学が取り組んできたグローバルな人材育成の教育方針とその教育手法を新たに設置する看護学部を活用できることは、非常に大きな強みになると考える。そこで、グローバルな視点を獲得できるように編成されている「共通教育科目」、そして他学部の専門教育科目の一部を看護学部の学生も「専門基礎科目」として履修できるように編成した。

しかし、それらは、同時に看護職としての教養ある豊かな人間性を築くための基盤となる重要な科目であったことから、看護学部の教育カリキュラム上の位置付けを<看護構想科目群>として編成した。カリキュラムとの整合性の観点からは、グローバルな人材育成に関する共通教育科目等は、よりよい看護を探究しつつ実践に取り組む姿勢を育成する<看護探究科目群>としても位置付け、編成しておくべきであったと考える。

これは、今回審査意見2において、ディプロマ・ポリシーに『国際・地域社会のニーズ』『グローバルな視点』を掲げ、カリキュラム・ポリシーで『多文化について学び国際的な視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」により人々の地域での暮らしに関心をもてるように』するとしながらも、「国際的視野」を育成する授業科目が適切に編成されていないという指摘を受けることになった理由の1つと考える。

以上を踏まえ審査意見2について、まず「国際」の捉え方を再検討し、看護学部で「国際」という表現によって育成を目指していることは、鹿児島国際大学のグローバルな人材育成における「国際的視野」の考え方に基づき、「特定の地域や国を越えて地球上に暮らす全ての人々にとっての公共の福祉という視点をもって考えることができる」能力が重要であり、そのためには「異文化をリスペクトすることができる」「様々な文化を持つ人たちとコミュニケーションをとることができる」能力を育む必要があることを確認した。

そして、<看護探究科目群>に、グローバルな視点を育成する基盤となる「共通教育科目」と「専門基礎科目」の一部を再配置し、それらをカリキュラムマップ上に再掲という形で明示することにした。これに伴い、地域的視点で行動できる能力を育成する科目については、「暮らし探索フィールドワーク」以外にも数多く編成していることから、カリキュラム・ポリシーのCP9の「暮らし探索フィールドワーク」に「等」を加筆し、以下のような修正を行った【資料1、2、3】。

(旧) CP9. 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。



(新) CP9. 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」等により人々の地域での暮らしに関心をもてるよ

うにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。

さらに、看護専門教育科目についても、国際看護や国際保健を学ぶ教育内容を充実させ、それらを教授する科目については、看護探究科目群に再配置し、カリキュラムマップ上に再掲という形で示し、各科目の国際看護・国際保健に関する講義コマ数を*（ ）で示した。

具体的な科目は、従前からの「看護学概論」における国際看護（2 コマ）に加えて、以下の4科目に国際保健分野においてグローバルな視点を育成するための7コマを新たに設定した【資料4】。

①「健康増進看護総論Ⅰ：地域保健」

従来は、地域や家庭を中心とした地域保健における看護の役割等について学ぶ講義内容であったが、**国際保健における看護の役割等について学ぶ 2 コマを設定し、**グローバルな視点から地域保健を学び、考えられるようにした。

②「健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎」

従来は、地域で生活する人たちの健康増進のための個別支援と地区活動の基本的な実践プロセスを学ぶ講義内容であったが、**海外における地域づくりの事例を通して、国や地域間の実情を踏まえた地区診断及び地区活動の方法を学ぶ 1 コマを設定した。**

③「健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動」

従来は、健康課題の特性に応じた地域を基盤とする看護活動について学ぶ講義内容であったが、**その対象を在日外国人にも拡大し、その健康課題の理解に、異文化・多文化理解が重要であること、感染症や化学汚染、放射能汚染など国境を越えた健康被害に対する看護活動 (2 コマ) を含めて学ぶ科目とした。**

④「健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動」

従来は、地域や場に応じた保健活動の特性を産業保健と学校保健という観点から学び、海外における保健師活動について1コマ設定していたが、学習の統合において、**国内外の実情を踏まえた看護活動**についての演習を1コマ実施し、グローバルな視点で保健師活動を捉えられるようにした (2 コマ)。

2)「看護キャリア発達論」における国際的視野の育成について

看護学部では、人材養成像に『**よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる**』と表すことにより、生涯にわたりよりよい看護を探究し続ける課題探究力と探究姿勢を獲得できるようにすることを示した。そして、<看護探究科目群>によって、実践科学である看護を常により良いものへと発展させ、人々の健康と福祉に貢献できるものにするための、看護の対象理解、看護実践、看護キャリア開発などに、自ら探究的に取り組み、生涯にわたり看護を発展させていく**課題探究力と探究姿勢**を育成できるように編成した。これにより、<看護探究科目群>には、DP14の下位項目である『DP8よりよい看護実践に

意欲と関心をもち、グローバルな視点を基に探究し続ける姿勢』を身につけられるようにするために、『CP9 初年次から多文化について学び国際的視野を養うとともに、「暮らし探索フィールドワーク」等により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展』できるようにするための具体的科目を配置した。

そして、＜看護探究科目群＞を中心とする履修により、実際に人材養成像に示す課題探究力と探究姿勢を卒業時にどれだけ獲得できるかを評価するディプロマ・ポリシーとして、課題探究力については「卒業研究」を重要科目として、『DP8 よりよい看護実践に意欲と関心をもち、グローバルな視点を基に探究する』能力を、どの程度身につけることができたかを評価することにした。

一方、生涯にわたる自己教育や課題探究に対する専門職業人としての姿勢については、「看護キャリア発達論」を重要科目とし【総合的な看護実践能力】の『DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高める』姿勢を、どの程度身につけることができたかを評価することにした。

しかし、今回審査意見 2 により、“DP14 のディプロマ・ポリシーを評価する重要科目として「看護キャリア発達論」を挙げているが、国際的視野を養成する科目内容となっていない”との指摘を受けた。

そこで、「看護キャリア発達論」の教育内容を検討し、国際的視野を養成するために、海外における看護職の役割とその養成システムに関する 3 コマを設定し、看護の役割の普遍性と文化に伴う特性を理解し、看護の捉え方を拡大・深化できるようにした。また、海外で活躍する看護職のキャリア開発に関する語りを聴講する機会を設定 (1 コマ) し、国際・地域社会のニーズの変化に対応し、常に自己を高める努力を続けている看護職の在り方を学ぶことができるようにした。そして、シラバスに示す授業の到達目標の「6 自己のキャリア開発に関する展望を持つことができる」を、「グローバルな視点を基に、自己のキャリア開発に関する展望をもつことができる」と加筆、修正した【資料 4】。

以上により、「看護キャリア発達論」を、自身の生涯にわたるキャリア発達をグローバルな視点から検討し、展望できる科目内容にすることで、『DP14 国際・地域社会のニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高める』という姿勢が、卒業時にどの程度獲得できているかを評価する重要科目としての機能を果たせる科目内容に加筆、修正した。

1) 2) により「国際」に関連する授業コマ数を総計 13 コマとした。

(新旧対照表) 基本計画書別記様式第 2 号 (その 3 の 1) (35 ページ)

新	旧
看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進看護総論 I : 地域保健 (概要) 多様な発達段階や健康レベルの人々が・・・看護活動方法の原則を学ぶ。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全 15 回) (⑥ 塩満智子/6 回)	看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進看護総論 I : 地域保健 (概要) 多様な発達段階や健康レベルの人々が・・・看護活動方法の原則を学ぶ。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全 15 回) (10 塩満智子/8 回)

新	旧
<p>地域看護の理念・・・看護職の役割・機能について学ぶ。 地域看護が・・・方法について学ぶ。 <u>(⑦ 稲留直子/2回)</u> <u>国際保健の発展と WHO をはじめとする国際的な保健医療機関の役割・活動を踏まえ、国や地域間にみられる健康水準や保健医療サービスの現状から、地球規模の保健医療に関する課題の解決に向けたグローバル・ヘルスの概念について学ぶ。他国における「地域を基盤とした看護」の歴史や各国のヘルスケアシステムの現状についてグループディスカッションを交えて学ぶ。</u> (16 小玉博子/5回) 医療や看護・・・について学ぶ。 (⑥ 塩満智子・16 小玉博子/2回) (共同) 看護の基本的・・・事例演習により学ぶ。</p>	<p>地域看護の理念・・・看護職の役割・機能について学ぶ。 地域看護が・・・方法について学ぶ。 <u>(追加)</u> (16 小玉博子/5回) 医療や看護・・・について学ぶ。 (⑩ 塩満智子・16 小玉博子/2回) (共同) 看護の基本的・・・事例演習により学ぶ。</p>

(新旧対照表) 基本計画書別記様式第2号 (その3の1) (36 ページ)

新	旧
<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎 (概要) 地域で・・・技術について学ぶ。 地域の人々・・・実践プロセスを学ぶ。 個別支援の方法・・・実践プロセスを通して学ぶ。<u>海外における地域づくり活動の事例を通して、国や地域間の実情を踏まえた地区診断及び地区活動の方法を学ぶ。</u></p>	<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎 (概要) 地域で・・・技術について学ぶ。 地域の人々・・・実践プロセスを学ぶ。 個別支援の方法・・・実践プロセスを通して学ぶ。<u>(追加)</u></p>

(新旧対照表) 基本計画書別記様式第2号 (その3の1) (36 ページ)

新	旧
<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動 (概要) 地域を・・・活動から学ぶ。 わが国の・・・役割について理解する。 すべての人々が・・・基本的考え方と方法を学ぶ。<u>また、在日外国人の背景や健康課題を理解し、異文化・多文化を理解することの重要性や感染症、化学汚染、放射能汚染など、国境を越えて人々の健康に重大な影響を及ぼす健康危機における看護活動について学ぶ。演習を通して、・・・</u></p>	<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動 (概要) 地域を・・・活動から学ぶ。 わが国の・・・役割について理解する。 すべての人々が・・・基本的考え方と方法を学ぶ。<u>(追加)</u> 演習を通して、・・・</p>

新	旧
<p>看護職の役割について検討し、理解を深める。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (⑦ 稲留直子/5回) 健康課題(精神障害者・健康危機管理)の……を理解する。 (② 米増直美/4回) 健康課題(難病)の……を理解する。 (⑥ 塩満智子/3回) 健康課題(感染症)の……を理解する。 (② 米増直美・⑥ 塩満智子・⑦ 稲留直子/3回)(共同) 地域看護の……検討する。</p>	<p>看護職の役割について検討し、理解を深める。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (⑪ 稲留直子/5回) 健康課題(精神障害者・健康危機管理)の……を理解する。 (③ 米増直美/3回) 健康課題(難病)の……を理解する。 (⑩ 塩満智子/4回) 健康課題(感染症)の……を理解する。 (③ 米増直美・⑩ 塩満智子・⑪ 稲留直子/3回)(共同) 地域看護の……検討する。</p>

(新旧対照表) 基本計画書別記様式第2号(その3の1)(36ページ)

新	旧
<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進ケア論Ⅳ:学校・産業保健活動 (概要)地域を……学ぶ。学校・産業という場……理解する。また、地域特性に応じた活動として、離島・へき地における活動、都市部における活動、海外における保健師活動について学び、地域特性に応じて活動を構築していく方法を理解する。 総括では、海外の保健活動も含めて地域を基盤とした看護の考え方をディスカッションにより確認する。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (⑥ 塩満智子/6回) 産業保健の……学ぶ。 (⑦ 稲留直子/8回) 学校保健の……学ぶ。 (⑥ 塩満智子・⑦ 稲留直子/1回)(共同) 学習の統合演習</p>	<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護実践能力育成科目 健康増進看護 看護 健康増進ケア論Ⅳ:学校・産業保健活動 (概要)地域を……学ぶ。学校・産業という場……理解する。また、地域特性に応じた活動として、離島・へき地における活動、都市部における活動、海外における保健師活動に、地域特性に応じて活動を構築していく保健師の役割について学ぶ。 (追加) (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (⑩ 塩満智子/6回) 産業保健の……学ぶ。 (⑪ 稲留直子/8回) 学校保健の……学ぶ。 (⑩ 塩満智子・⑪ 稲留直子/1回)(共同) 学習の統合演習</p>

(新旧対照表) 基本計画書別記様式第2号(その3の1)(43ページ)

新	旧
<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護探究科目 探究 看護 看護キャリア発達論 (概要)この科目では、……必要性を理解する。そして、国内外で活躍している先輩看護職から、自身の看護職としてのキ</p>	<p>看護学科専門教育科目 専門科目 看護探究科目 探究 看護 看護キャリア発達論 (概要)この科目では、……必要性を理解する。そして、様々な場で活躍している先輩看護職から、自身の看護職としての</p>

新	旧
<p>キャリア開発に関する語りを聴講し、<u>国際・地域社会の変化に対応し、自己を高める努力を続けている看護職としての多様な在り方と、地域貢献の仕方があることを理解し、自らのキャリア発達について検討、展望できるようにする。</u> <u>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回)</u> <u>(① 堤由美子/5回)</u> キャリア発達の・・・検討できるようにする。 <u>(移動)</u></p> <p>(2 中馬成子/2回) 看護職の・・・できるようにする。 <u>(③ 鳥越郁代/3回)</u> <u>諸外国(イギリス、オーストラリア、アメリカ)における看護職の役割、またキャリア開発のための教育システムの現状について学び、看護職の活躍の場の多様性を理解し、自身のキャリア開発について検討できるようにする。</u> <u>(①堤由美子・③鳥越郁代/5回)(共同)</u> <u>国内外で活躍する先輩看護師のキャリア開発に関する語りを傾聴し、自身の卒業後のキャリア開発について検討できるようにする。</u> <u>(予定しているゲストスピーカー:専門看護師、JNP、認定看護師、ジェネラリスト、看護管理者、海外や離島などで活躍する看護職など)</u></p>	<p>キャリア開発に関する語りを聴講し、<u>(追加)</u> 看護職としての多様な在り方と、地域貢献の仕方があることを理解し、自らのキャリア発達について検討、展望できるようにする。 <u>(オムニバス方式/全15回)</u> <u>(① 堤由美子/13回)</u> キャリア発達の・・・検討できるようにする。 <u>(予定しているゲストスピーカー:専門看護師、JNP、認定看護師、ジェネラリスト、保健師、助産師、看護管理者、海外で活躍する看護職など)</u> (2 中馬成子/2回) 看護職の・・・できるようにする。 <u>(追加)</u></p> <p><u>(追加)</u></p> <p><u>(移動)</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (12 ページ)

新	旧
<p>CP9. 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、<u>「暮らし探索フィールドワーク」</u>等により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。</p>	<p>CP9. 初年次から、多文化について学び国際的視野を養うとともに、<u>「暮らし探索フィールドワーク」</u>により人々の地域での暮らしに関心をもてるようにし、社会に貢献する看護を様々な視点から探究する「卒業研究」に発展できるように編成する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (23～24 ページ)

新	旧																																												
<p>(3) よりよい看護を目指し探究する姿勢を育む編成</p> <p>看護学士課程・・・科目を編成した(表9参照)。そして、常によりよい看護を探究し続ける課題探究力と探究姿勢の基盤となるグローバルな視点を育成するために、「共通教育科目」と他学部の専門教育科目のうち看護学部学生が受講可能な「専門基礎科目」の一部を再配置し編成した。さらに、看護の専門教育科目においては、国際看護や国際保健についての学修や地域におけるフィールドワーク等を通して、グローバルな視点から対象の地域での暮らしを検討できるようにするとともに、そのような対象の・・・編成した。</p> <p style="text-align: center;">表9 <看護探究科目群>の科目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;"><看護探究科目群></th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">共通教育科目(再掲)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">〔人間教養科目〕</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">日本文学</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">外国文学</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">音楽文化論</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">日本史</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">西洋史</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">東洋史</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">東西文化の交流</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">地域創生Ⅰ・Ⅱ</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">Japanology</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">地域から世界へ</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">かごしま教養プログラム</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">かごしまフィールドスクール</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">海外インターンシップ</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">〔コミュニケーションスキルズ科目〕</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">英語オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">英語海外研修</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">英語リーディング</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">英語ライティング</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">英文読解の技法</td></tr> </tbody> </table>	<看護探究科目群>	共通教育科目(再掲)	〔人間教養科目〕	日本文学	外国文学	音楽文化論	日本史	西洋史	東洋史	東西文化の交流	地域創生Ⅰ・Ⅱ	Japanology	地域から世界へ	かごしま教養プログラム	かごしまフィールドスクール	海外インターンシップ	〔コミュニケーションスキルズ科目〕	英語オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ	英語海外研修	英語リーディング	英語ライティング	英文読解の技法	<p>(3) よりよい看護を目指し探究する姿勢を育む編成</p> <p>看護学士課程・・・科目を編成した(表9参照)。そして、初年次からの地域でのフィールドワークを通して、看護の対象は地域で暮らす人であるという視点を育成し、そのような対象の・・・編成した。</p> <p style="text-align: center;">表9 <看護探究科目群>の科目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;"><看護探究科目群></th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">(追加)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">(追加)</td></tr> </tbody> </table>	<看護探究科目群>	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)	(追加)
<看護探究科目群>																																													
共通教育科目(再掲)																																													
〔人間教養科目〕																																													
日本文学																																													
外国文学																																													
音楽文化論																																													
日本史																																													
西洋史																																													
東洋史																																													
東西文化の交流																																													
地域創生Ⅰ・Ⅱ																																													
Japanology																																													
地域から世界へ																																													
かごしま教養プログラム																																													
かごしまフィールドスクール																																													
海外インターンシップ																																													
〔コミュニケーションスキルズ科目〕																																													
英語オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ																																													
英語海外研修																																													
英語リーディング																																													
英語ライティング																																													
英文読解の技法																																													
<看護探究科目群>																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													
(追加)																																													

新	旧
<u>Global Economy and Business</u> <u>基礎中国語 I・II</u> <u>基礎フランス語 I・II</u> <u>基礎ドイツ語 I・II</u> <u>基礎韓国語 I・II</u> <u>韓国語海外研修</u>	<u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u>
専門基礎科目 (再掲)	(追加)
<u>地域社会論</u> <u>まちづくり概論</u> <u>地域経済論</u> <u>環境経済論 I・II</u> <u>文化人類学</u> <u>日本史特論</u> <u>鹿児島歴史</u>	<u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u>
専門科目	専門科目
<u>(共通教育科目：新入生ゼミナール)</u> <u>暮らし探索フィールドワーク</u> <u>看護学概論 (再掲) * (2)</u> <u>健康増進看護総論 I (再掲) * (2)</u> <u>健康増進ケア論 I (再掲) * (1)</u> <u>健康増進ケア論 III (再掲) * (2)</u> <u>健康増進ケア論 IV (再掲) * (2)</u> <u>看護研究</u> <u>卒業研究 I</u> <u>卒業研究 II</u> <u>看護キャリア発達論 * (4)</u>	<u>(新入生ゼミナール)</u> <u>暮らし探索フィールドワーク</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>(追加)</u> <u>看護研究</u> <u>卒業研究 I</u> <u>卒業研究 II</u> <u>看護キャリア発達論</u> <u>(追加)</u>
<u>* () は国際看護・保健に関するコマ数</u>	

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (27 ページ)

新	旧
<p>(8) グローカルな視点で考え行動する能力の育成</p> <p><u>国際的視野でものを考え、地域に根差した活動をめざすグローバルな視点と行動力を育成する編成を行った。国際的視野については、「特定の地域や国を越えて地球上に暮らす全ての人々にとっての公共の福祉という視点をもって考えることがで</u></p>	<p>(8) グローカルな視点で考え行動する能力の育成</p> <p><u>共通教育科目では、多文化に関する学修、多くの留学生との交流や海外研修を体験することができる。その一方、地域志向科目群を中心とする地域について広く深く学べる多彩な科目も履修できる。看護学部ではこれらの共通教育科目における学</u></p>

新	旧
<p>きる」能力が重要であり、そのためには「異文化をリスペクトすることができる」「様々な文化を持つ人たちとコミュニケーションをとることができる」能力を育む必要があることから、共通教育科目において、多文化に関する学修、多くの留学生との交流や海外研修等を体験することができるようにした。一方、地域に根差した視点を獲得できるように、地域志向科目群や専門基礎科目内に一部開講する他学部専門教育科目を中心とする地域について広く深く学べる多彩な科目を履修できる編成とした。看護学部ではこれらの共通教育科目と専門基礎科目における学びを基に、専門科目において、“国際的な保健看護活動の実際”や“海外で活躍する看護職の活動の実際”について学ぶとともに、離島やへき地において地域住民に寄り添いながら行う保健看護活動の実際についても学び、多様な地域における看護の在り方を検討し、学修できるようにしている。そして、これらの学修を通して、国際的視野でものを考え、地域の視点で行動するグローバルな思考力とコミュニケーション力、さらに地域社会を多角的に捉えその発展に貢献しようとする意欲を育む編成とした。</p>	<p>びを基に、専門科目において、“国際的な保健看護活動の実際”や“海外で活躍する看護職の活動の実際”について学ぶとともに、離島やへき地において地域住民に寄り添いながら行う保健看護活動の実際についても学び、多様な地域における看護の在り方を検討し、学修できるようにしている。そして、これらの学修を通して、国際的視野でものを考え、地域の視点で行動するグローバルな思考力とコミュニケーション力、さらに地域社会を多角的に捉えその発展に貢献しようとする意欲を育む編成とした。</p>